

第4回 四総信海外視察研修を実施しました！

四総信にて第4回海外視察研修(香港・マカオ)を実施しました。平成27年7月8日(火)～11日(土)までの間、母体銀行の優績者(平成26年度下期四総信保証付ローン獲得優績者20名)を対象に現地視察の他、大和証券キャピタル・マーケッツ香港リミテッドに訪問し、アジア経済について勉強しました。

大和証券キャピタル・マーケッツ香港リミテッドを訪問 「アジアのマクロ経済」についての講話(一部抜粋)

- ① 大和証券の香港での役割
 - ・アジア全体に12カ店を展開し、従業員数は約1,000人
 - ・アジア諸国に日本の投資商品等の提供、日本株・アジア主要国株式を世界へ販売、デリバティブ取引(東京市場のトレード)、債権取引(投資家へ販売)を行っている。
- ② アジアのマクロ経済

BRICs 諸国を主とする新興国は、構造的・循環的な要因により多年度に渡る経済低迷に陥り、先進国の経済回復トレンドから遅れを取っている状況であり、2015年はアジア新興国にとって、失望の年となる可能性がある。

中国は2014年に緩やかな経済回復を示したが、アジアの近隣諸国への波及効果は期待はずれに留まった。習近平国家主席の政策は、政治的にも経済的にも変化が見え始めており、市場主導の改革は今後2～3年の課題解決ができるかが重要となっている。

G3(アメリカ・EU・日本)経済の緩やかな回復が続いている間に、FRB(米連邦制度準備理事会)の量的金融緩和縮小やアジア新興諸国の課題という負の課題を克服できるかを注視していかなければならない。

大和証券キャピタル・マーケッツ香港リミテッド



大和証券キャピタル・マーケッツ香港リミテッドの視察風景



参加者の感想

- ・大和証券の企業視察では、アジア・中国经济について教養を高めることができました。自分の担当するお客様の中でも、アジア圏への海外進出に関心のある企業は多く、今回の視察研修旅行で自分が見てきたことを営業活動に活かしていきたいです。
- ・「百聞は一見に如かず」と言われますが、普段インターネットや新聞等でイメージしていた中国经济と今回の視察研修で目の当たりにした香港経済、不動産取引の状況は想像以上に活発で経済の成長を感じました。今回の研修旅行を日々の業務に活かすと共に、これからの中国经济の動向をより興味をもって見ていきたいと思います。
- ・海外で企業視察や研修を行うことで、アジアの文化や生活を学ぶことができ、アジアにおける日本の状況や日本文化を再認識するきっかけとなりました。香港の企業では、既に人材のグローバル化が進み、非常に優秀な若い世代がアジアから世界を動かしており、同じアジアでもまったく違う状況が進んでいると感じました。

マカオセントポール大聖堂にて



香港ビクトリア湾より100万ドルの夜景

